

ハイサイ沖縄

5

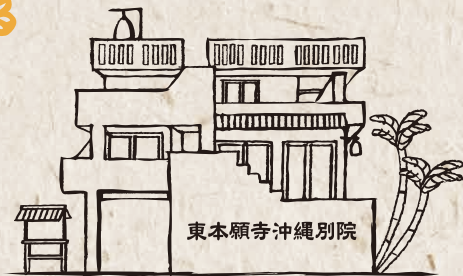
May. | 2022
沖縄開教本部通信
vol.99

※「ハイサイ」…沖縄の言葉で「こんにちは」のこと



目次

- みんなになるな ひとりになれ 玉光 順正
- 沖縄はいま! 沖縄県議会「ウクライナ早期停戦を決議」
 - 5月15日は沖縄・本土「復帰」50年
 - コラム 「今、できる事は何なのか」 岸本 雄志



みんなになるな

ひとりになれ

玉光 順正 (元教学研究所有長)

「夢

を語れ ロマンを抱け
人々のしあわせ 平和のため

読谷村の残波大獅子(シーサー)のそばに刻まれた、山内徳信元読谷村長の言葉である。はじめて出会ったとき、何故か私は「願生浄土」という言葉が浮かんできた。

「経済や産業や社会の問題をもひっくるめて、それが生きた形で動いている全体を政治ということではぼつてみるならば、政治は『現世的なもの』の集約であるといえましょう。そして宗教の宗教性を最も発揮できるのは、こうした意味での政治に対決するときにおいてであると、私は思うのです」(元一橋大学学長上原専禄) 上原さんは日蓮宗徒であるが「親鸞認識の方法」という論もあるように親鸞にも造詣の深い方だった。

「現世的なものの集約である」社会問題、政治問題であるが、寺院でそんなことが語られると、それは信心の問題とは違うという批判、批難は今でも多い。宗教とは心の問題であつて社会

問題、政治問題はそれぞれの専門家にまかせたらいということだろうか。しかし、上原さんのいう「宗教がその宗教性を発揮」しようとする限り、それは成り立たないし、同時に、これまでの真宗史、承元の法難、一向一揆、石山合戦そして教団問題等から何も学んでいないということになる。とするなら、どう語ればいいのか。上原さんの言われる「政治に対決する」語りとはどういうものだろうか。

もう三年目になるがコロナ現象(禍)が続いている。二月二十三日、突然ロシアのウクライナ侵攻が始まった。それらも含めて、私たちが「現世的なもの」の集約である政治に「宗教がその宗教性を発揮」とはどんなことか。

それこそが釈尊の「自灯明・法灯明」そして親鸞の「非僧非俗」の意味ではないだろうか。

「自灯明」とは自分で考える人間になること。自分で考えるところと、自分で考えたつもりとは違う。メディアの信頼度(鵜呑み度)が先進国



読谷村の残波大獅子(シーサー)

の中では、圧倒的に高いといわれる日本では、自分で考えたつもりということも圧倒的に多いということである。そこで問題は、「法灯明」である。「法灯明」そのためには法(おしえ)は、知識でなく智慧を学ぶこと、覚えることではなく考える力である。E・W・サイードは「批判的センス」と言う。

その時、親鸞の「非」という言葉が意味を持つてくる。「非」とはブレないということである。浄と真(きよらかさとまこと)と人々の願い、そこからブレないで語ること。賛成、反対、多数、少数、都合がいい、悪い等ではない選びである。同時に、「非」という言葉は、どうしても権力の側には立てない、立たないということがある。

ブレないということと、権力の側に立てない、立たないということは、「ひとりになる」ということである。「ひとりになる」ことによつて、日本社会の特徴であるタテ社会と世間から脱却し、そこに僧伽が開かれるのである。

ハイサイ沖縄

『五月十五日は沖縄・本土「復帰」五十年』

今年には沖縄の施政権が米
国から日本政府に返還（19
972年）されて50周年。そ
の記念式典が沖縄と東京で同
時開催され、記念硬貨も発行
される。那覇市にある観光名
所の「国際通り」では、沖縄
の「オリオンビール」などで
4500人が同時に乾杯し、
ギネス記録を目指すという。

しかし「祝う」という風潮
ばかりでもない。そもそも米
軍の占領下にあった当時の沖
縄の人々が切望したのは、平
和憲法下の日本に「復帰」し、
日本本土と同等の平和な社
会、人権の保障そして経済で
あった。ところが現実是在日
米軍の7割以上が今も沖縄
に集中し、関連する事件事故
が続いている。経済は観光が
盛んで基地建設など公共事
業があつても、平均年収はほ
ぼ最下位。また沖縄への誹謗

中傷は近年深刻で、ネット上
でのヘイトスピーチは見るに
堪えない。厳しい「沖縄差別」
があつた50年前から形を変え
て続いている。
国際通りでの乾杯を企画
した主催者は「沖縄は複雑
な問題も抱えているが、ウ
チナンチュで良かったと子
どもから大人までが実感し、
これからの50年にも乾杯し
たい」（沖縄タイムス3月14
日）とその開催の意義を語っ
ている。

【沖縄はいまー】 沖縄県議会「ウクライ ナ早期停戦を決議」

県議会は三月二日、ロシア
によるウクライナ侵攻に対し

て「早期停戦、撤退と平和
的手段による早期解決をも
とめる決議」を全会一致で可
決した。激しい地上戦が展
開され悲惨な沖縄体験を踏
まえ、戦後七十七年を経た
現在も続く遺骨収集・不発

ロシア連邦によるウクライナ侵攻に対し、早期停戦、撤退と平和的手段による
早期解決を求める決議（要旨）
ロシア連邦はウクライナへ 求めた武力行使の波及を強く 憂慮する。特に、国境に隣接
する離島を抱え広大な領海を 有する本県が、不測の事態に さらされることを強く懸念
する。戦後77年を経た現在でも、戦争に起因す
る問題を抱え今日に至ってい
る。今回の侵攻は許しがたい
蛮行で強い憤りを覚える。
自国主義を押し進める軍事
行動が紛争問題を抱える国々
の前列となり、自国主義を追
が脅かされている事態を憂慮
し強く非難する。同時に国際
社会の結束と協調で平和的な
手段による早期解決を求める
とともに、ロシアが一列島早
く国連憲章に立ち返り、早期
停戦し、ウクライナから軍事
撤退させ、世界平和を拒否的
な任理事国としての義務を果た
すことを強く求める。
ロシア大統領 駐日ロシア
大使宛て

琉球新報 3月3日付

弾処理など沖縄戦の被害に
触れつつ、戦争体験者らの苦
難を教訓として「東アジアの
平和創造拠点づくり」に努め
る事を宣言し、平和的
手段による早期解決などを求め
た。ウクライナ侵攻に「許し
がたい蛮行で強い憤りを覚え
る」と非難して、決議ではロ
シア大統領とロシア大使に対
し、ウクライナ侵攻が「紛争
問題を抱える国々の前例」と
なり、国境離島を有する沖
縄が「不測の事態に巻き込ま
れる」ことへの懸念も示した。

「今、できる事は何なのか」

私は京都の大谷専修学院を卒業して沖縄に帰っ
てきて今年で四年目になりました。最初の二年は
行事・勉強会・懇親会・各種活動などを通して様々
な方と関わりながら、お念仏をいただく、とても
濃い期間でした。

しかし別院の法務や各種活動にも慣れ始めたとき
に、コロナウイルスが世界的にまん延し、以前コラム
を担当したときは「本山で世界同朋大会があり、本
大会の後、沖縄に訪問いただく世界の同行との出会
いを楽しみにしている」と書かせていただいたのだが、
それも叶いませんでした。今なお、人とあまり会わな
い生活が推奨されて、出会いどころか疎遠になること
が多い気がします。

そんな中、沖縄別院では同朋の会の方々には寺報を
送らせていただいたり、インターネットを介したりリ
モートの勉強会などを通して、お寺に関わる新しい顔
ぶれが増えていくことはとても嬉しい事でありました。
寺院として土曜礼拝が以前のようにできなくなっ
た現在、目の前の人と膝を突き合わせて語り合うの
がベストと考えますが、かつて親鸞聖人が関東の門弟
の方々と手紙でやり取りしたように、しばらくは通
信機器を使い、共に念仏する同行の方々とはふれ合う
中で「世の中安穏なれ仏法弘まれ」と願うと同時に、
早いうちに本堂が賑やかになるのを願うばかりです。

沖縄別院法務員 岸本 雄志